

# 第6次小田原市総合計画(案)

## 序論

### 策定趣旨

### 計画の構成と計画期間

- 本計画は、基本構想と実行計画の2層構造としています。
- 基本構想は、令和12年度(2030年度)に実現を目指す将来都市像とまちづくりの目標を明示しています。
- 実行計画は、将来都市像を具現化するための各施策を示す計画として策定し、計画期間を1期3年とします。(重点施策は9年)

### ウィズコロナ、ポストコロナ社会に向けた視座

### 社会情勢の変化と本市の課題

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響
- ② 地方創生の推進
- ③ SDGsの取組
- ④ 価値観の多様化と共生社会
- ⑤ 地球環境問題の深刻化と脱炭素社会
- ⑥ 安全・安心の意識の高まり
- ⑦ 社会のグローバル化
- ⑧ デジタル化社会に向けた取組
- ⑨ 急速な社会経済情勢の変化と公民連携
- ⑩ コンパクトなまちづくり
- ⑪ 行政に求められるもの

### 市民アンケート調査結果

## 基本構想

### まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿

小田原には、森里川海が「ひとつらなり」となった豊かな自然環境、長い歴史の中で先人より継承されてきた文化・伝統産業、都心からほど良い距離という立地、鉄道や高速道路などの交通インフラ、そして、我が国でも特筆すべきレベルに成長した市民力や地域力といった人の力があります。

歴史の中で形成されてきた他都市が真似できない小田原の地域資源は、私たちの誇りや暮らしの拠り所となります。そして、未来に向かって発展していく礎として、その価値を継承し、進化させていくことが、今を生きる私たちの使命です。

こうした多様な地域資源を生かしながら、近年目まぐるしく変化する社会情勢に対応し、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、地域住民や地域の多様な主体が支え合い、一人ひとりの暮らしと生きがいを地域とともに作っていくことのできる社会の実現を図っていきます。

人、地域、時代をつなぐまちづくりの視点を大切にしながら、2050年の脱炭素社会の実現を見据え、次世代に責任を持てる持続可能なまちを築くため、2030年に目指す小田原の姿、将来都市像を次のとおり掲げます。

### 「世界が憧れるまち“小田原”」

「世界が憧れるまち“小田原”」を実現するためには、小田原の地で培われてきた市民力や地域力を生かした課題解決の取組を進化させつつ、新たな考え方や技術を積極的に取り入れ、これまでにない価値を生み出すことや、公民連携の手段等により、市民生活の質を向上させることは欠かせません。

また、高い防災力と教育水準、地域医療と福祉の充実を図りながら、地域内外を重層的に人や物が好循環する環境を作り、小田原を中心とした県西地域の経済を活性化させていくことも求められます。

そこで、これからのまちづくりにおいては、小田原の「豊かな環境の継承」を土台に、「生活の質の向上」と「地域経済の好循環」を具現化することを目標に掲げ、社会の変化に対応した取組を的確かつ迅速に推進することで、小田原に人や企業を呼び込み、人口20万人規模の都市を目指していきます。

そして、ポストコロナ社会を視野に入れながら、小田原の魅力を最大限に磨き上げ、全ての市民が、このまちに住んで良かった、住み続けたいと感じる、郷土愛と誇りの持てる小田原を形成し、その魅力の発信を通じて、国内外の人たちが行ってみたい、住んでみたいと憧れる「世界が憧れるまち“小田原”」の実現につなげていきます。

### まちづくりの目標と推進エンジン

#### まちづくりの目標

- ① 生活の質の向上
- ② 地域経済の好循環
- ③ 豊かな環境の継承

#### まちづくりの推進エンジン

- ① 行政経営
- ② 公民連携・若者女性活躍
- ③ デジタルまちづくり

## 実行計画（重点施策）

### 1 医療・福祉

- ① 安心の地域医療体制
- ② 地域共生社会の実現
- ③ 健康寿命の延伸

### 2 防災・減災

- ① 地域国土強靱化の推進
- ② 地域防災力の強化

### 3 教育・子育て

- ① 質の高い学校教育
- ② 子ども・子育て支援
- ③ 幼児教育・保育の質の向上

### 4 地域経済

- ① 企業誘致の推進
- ② 多様な働き方環境の整備
- ③ 地域資源を生かしたビジネス展開

### 5 歴史・文化

- ① 歴史・文化資源の魅力向上による交流促進
- ② 文化・スポーツを通じた地域活性化
- ③ 世界とつながる機会の創出

### 6 環境・エネルギー

- ① 再生可能エネルギーの導入促進
- ② 地域循環共生圏の構築と森づくり

### 7 まちづくり

- ① 小田原駅・小田原城周辺のまちづくり
- ② 地域特性を生かしたまちづくり

基本構想に掲げるまちづくりの目標とあわせ、9年間で特に重点的かつ分野横断的に取り組む施策を重点施策として取りまとめています。

### 人口シナリオ

本市の人口を増加させていくためには、「出生増」、「社会増」、「死亡減」の命題に取り組んでいく必要があります。

「社会増」を、本市人口増加策のメインとなる命題とし、これまで展開してきた移住プロモーションをはじめとした小田原暮らしの「訴求」と、住まい・仕事・子育て支援策等の暮らしのための「環境整備」を両輪として、移住定住促進策を展開していきます。

重点施策に掲げる取組を総動員しながら、当面は、拡大する自然減を社会増で補完し、人口減少に歯止めをかける段階を目指していきます。その段階に至ることができれば、社会増の影響が自然減抑制（出生増）にも影響を与えはじめることから、取組を継続・進化させることで、「人口20万人規模の都市」の実現を図っていきます。